

Title	東日本大震災国際神学シンポジウム(2012年3月23日)開催の準備過程報告(総合研究所News)
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.5, 2012.3 : 50-53
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3870
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

東日本大震災国際神学シンポジウム (2012年3月23日)開催の準備過程報告

東日本大震災国際神学シンポジウムを開催する計画は、フラー神学校から「東日本大震災で被災した諸教会にどのような支援ができるか」という問い合わせがあったことにはじまる。

フラー神学校との関わりのある東京基督京大学、東日本大震災救援キリスト者連絡会(DRCnet)、聖学院大学の3団体が実行委員会を構成して、フラー神学校と協議しながら進めることが決まった。基本方針として、①この事業に教会、教派、学校に協賛・後援を呼び掛け、被災した諸教会の支援に教派を越えた連携をつくる、②1回のお祭りとするのではないように、継続した計画を検討する、そして、③第1回は、「東日本大震災国際神学シンポジウム」とすることであった。

当初は、主催にフラー神学校を入れたが、フラー神学校から、日本の教会・学校が主催すべきであり、共催となるとの申し出があった。

この報告では、シンポジウム開催までの準備過程を取り上げ、シンポジウムの開催と参加者の意見、感想は次号に掲載する。

1. 実行委員会メンバー

主催する3団体から下記のメンバーが実行委員となった。東京基督教大学：倉沢正則、伊藤天雄、聖学院大学：山本俊明、藤原淳賀、東日本大震災救援キリスト者連絡会(DRCnet)：中台孝雄、榊原寛、高橋和義、品川謙一。

実行委員会は、お茶ノ水クリスチャンセンターOCC理事長室で開催することとなった。

2. 実行委員会の開催と議題

第1回：2011年12月15日、主題、日程の決定、講演者、プログラム案、会場の決定、案内ちらし作成、協賛・後援の呼びかけ

第2回：2012年1月20日、プログラム、協賛・後援団体の申込み状況、フラー神学校講師たちの被災地訪問計画(仙台ほか)、シンポジウム後の計画

第3回：2012年2月16日、協賛・後援団体の申込み状況、会場利用について。協賛・後援団体の展示コーナーを設けること。

第4回：2012年3月7日、予算案検討、運営役割分担、シンポジウム後の計画。

3. 協賛・後援団体

協賛は一口1万円以上、後援は名義後援として呼びかけをしたところ、下記の団体から申し出があった。

【協賛】

青山学院大学宗主任会

お茶の水クリスチャンセンター

クラッシュ・ジャパン

五宝商事

聖学院キリスト教センター

東北ヘルプ

日本キリスト教会神学校

日本基督教団

日本同盟基督教団

日本バプテスト教会連合

国分寺バプテスト教会

日本バプテスト同盟

日本バプテスト連盟

日本福音同盟（JEA）

福音主義神学会東部部会

リーベンゼラ日本宣教団

【後援】

青山学院大学総合研究所

いわきCERSネット

賀川豊彦記念松沢資料館

関東学院大学・キリスト教と文化研究所

災害支援緊急援助隊アガベールCGN

福島県支部

新生宣教団

東京ミッション研究所

日本バプテスト教会連合

日本ローザンヌ委員会

福島県キリスト教連絡会



Juan Martínez フラー神学校准教授

4. 国際神学シンポジウムプログラム

2012年3月23日、1：00-5：30pm、国際神学シンポジウム「いかにしてもう一度立ち上がるか——これからの100年を見据えて」を女子聖学院クロウソン・ホールにて開催することになった。開催案内のちらしとプログラムは次のとおりである。

1) 開催案内ちらしより。

「東日本大震災から1年となる今年3月に、フラー神学校（Fuller Theological Seminary）と共に国際神学シンポジウムを開催致します。日米の神学者たちが、これから100年先の日本のキリスト教会のあり方を見据えつつ、諸教会に仕え、励まし、現在なすべき働きを論じます。教団教派の伝統を大切にしつつ、その壁を越え、この時代における教会の役割と責任を考え、日本宣教におけるビジョンを共に仰ぐときとしたいと願っています。3.11を経た日本の教会が、世界のキリスト教への貢献となることを願っています」。

2) プログラム

総合司会 倉沢正則（東京基督教大学学長）

1：00 開会の挨拶・祈祷：中台孝雄（東日本大震災救援キリスト者連絡会会長）

1：10 会衆讃美「こひつじをば」 稲垣俊也（東京基督教大学講師、オペラ歌手）

奏楽 山内史奈（東京中央バプテスト教会音楽主事）

1：15 報告「限りなく狭間のない『支援と宣教』」 “Infinitely Close Relationship between Disaster Relief and Evangelism”



Glen Stassen フラー神学校教授

森谷正志（仙台バプテスト神学校校長）

- 1 : 30 講演 1 「神の時を捉える：神のわざへの参与」“Grasping the Time of God : Participating in His Work” 藤原淳賀（聖学院大学総合研究所教授）
- 2 : 00 講演 2 「大災害時におけるキリスト教的応答：教会史から学ぶ」“Christian Responses in Times of Disaster : Learning from Church History” Juan Francisco Martínez（フラー神学校准教授）
- 2 : 30 講演 3 「日本キリスト教史における東北」“The Tohoku District in the History of Japanese Christianity” 山口陽一（東京基督教神学校校長）
- 3 : 00 ディスカッション（近くの席の方々と）
- 3 : 20 休憩（質問表を総合司会者へ）
- 3 : 40 独唱賛美 「ホザンナ」（Jules Granier 作曲 中田羽後 訳詞）稲垣俊也、山内吏奈
祈禱 倉沢正則
- 3 : 45 講演 4 「同情する苦しみ、また不正義との対決としての十字架」“The Cross as Passionate Suffering and as Confrontation of Injustice” Glen Herald Stassen（フラー神学校教授）
- 4 : 15 講演 5 「神に迫られた改革：日本を神学する」“The Reformation Pressed upon Us by God : Thinking Theologically of Japan”

大木英夫（聖学院大学総合研究所所長）

- 4 : 45 ディスカッション（近くの席の方々と）
- 5 : 00 質疑応答・総合司会者コメント 倉沢正則
- 5 : 20 会衆讃美「キリスト教会の主よ」稲垣俊也、山内吏奈
- 5 : 25 閉会の挨拶・祈禱 阿久戸光晴（聖学院大学学長・理事長）
- 5 : 30-6 : 00 歓談

このプログラムの特徴は、200人以上の参加が期待される中で、できるだけ多くの方々に参加意識をもっていただくために、小グループで討議するプログラムを入れたことである。

5. 代表者会議の開催

上に述べたように、①1回の行事で終わらせない、②教派を越えた連携をつくりだすために、当日のシンポジウム終了後、18:00~20:00に「主催・共催・協賛・後援団体代表者会議」を聖学院本部新館2階会議室で開催することを計画した。

1) 代表者会議参加者名簿

参加者氏名	団体名
グレン・スタッセン	フラー神学校
ホアン・マルティネス	フラー神学校
メアリー・ギヴン	フラー神学校
小倉 義明	聖学院キリスト教センター
一場 茉莉子	フラー神学校（伝道師）
中台 孝雄	日本福音同盟（JEA）
安藤 能成	日本同盟基督教団
朝岡 勝	日本同盟基督教団
東野 尚志	日本基督教団
道家 紀一	日本基督教団
加藤 誠	日本バプテスト連盟
濱野 道雄	日本バプテスト連盟
米内 宏明	日本バプテスト教会連合国分寺バプテスト教会
三好 明	日本キリスト教会神学校
伊藤 悟	青山学院大学宗教主任会
川上 直哉	東北ヘルプ
住吉 英治	いわきCERSネット
森谷 正志	仙台バプテスト神学校
菊地 順	聖学院大学
倉沢 正則	東京基督教大学

広瀬 薫	東京基督教大学
伊藤 天雄	東京基督教大学
高橋 和義	DRCnet東日本大震災救援キリスト者連絡会
品川 謙一	DRCnet東日本大震災救援キリスト者連絡会
松下 端子	DRCnet東日本大震災救援キリスト者連絡会
大木 英夫	聖学院大学総合研究所
藤原 淳賀	聖学院大学総合研究所
ブライアン・バード	聖学院大学総合研究所
山本 俊明	聖学院大学総合研究所

2) 代表者会議プログラム

開会の挨拶・食前の祈祷 聖学院院長、聖学院
キリスト教センター所長 小倉義明

各団体からの活動報告

国際神学シンポジウムの今後の計画について

聖学院大学総合研究所教授 藤原淳賀

フラー神学大学校からの挨拶と閉会祈祷

メアリー・ギヴン

6. 東日本大震災国際神学シンポジウムの今後について

代表者会議で確認されたことは次の点であった。

1) フラー神学校は、3年間は継続して講師を派遣するなど支援をする。主題、時期、またシンポジウムとするか、講演会とするかなどは、今後協議をして決定する。

2) 各教派、団体の情報を交換し、相互に協力する。

3) 今後は、神学的な研究をはじめ。

4) 代表者会議を継続して開催する。

5) シンポジウムの記録を作成する。

などであった。

この方針のもとに、2012年度も活動は継続されることになった。



Jules Granier作曲の「ホザンナ」を歌う稲垣俊也氏